



ROTARY CLUB OF FUJIMI

富士見ロータリークラブ週報

第2192回例会 令和 3年 10月 15日(金)

【第2G戸高健司ガバナー補佐訪問】

2021-10-29発行



SERVE TO CHANGE LIVES

2021~2022年度

国際ロータリー会長シュメール・メーター
『奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために』

第2570地区ガバナー 水村雅啓
『もっと夢を もっと奉仕を』

【会 長】奥田功次
【副会長】深谷雅良
【幹 事】森田仁一
【副 SAA】尾崎孝好

- 【点 鐘】 会長 奥田功次会員
- 【斉 唱】 ロータリーソング「奉仕の理想」
- 【ご来賓】 第2G戸高健司ガバナー補佐
(朝霞キャロットRC)

【会長の時間】 会長 奥田功次会員



皆様こんにちは。
10月は米山月間です。前回、韓国からの米山記念奨学生 グォン ミンギョン さんの卓話と地区米山記念奨学部部門役員の一柳達朗様ご挨拶をいただきました。
今回は皆様のお手元に、過去に富士見クラブでお世話してきた奨学生の名簿をつくりました。
私は2003年入会でしたので、蔡雷(サイライ)さんはよく覚えています。中国語教室を開いて、ロータリアンと夫人が参加していました。
2014年 15年の韓国からの李東俊(イドンジュン)君はソウルでの国際大会に案内役を務めていただきました。
2016年 17年の陳伊蕃(チンイハン)さんはとても明るく楽しい方でした。
思い出を沢山作ってもらいました。
米山記念奨学生は色々な思い出を残してくれています。
また、カウンセラーをお勤め頂いた会員には感

謝致します。ありがとうございました。
本日は戸高健司ガバナー補佐に来ていただきました。先ほどまで書類の点検等を行って頂き、ありがとうございました。
後ほど卓話をお願いしております。

【幹事報告】幹事 森田仁一会員

- 1) 例会変更とプログラム
10月22日(金) 定款による例会取消
10月29日(金) 水村ガバナー公式訪問 点鐘12:30
通常例会・卓話
11月 5日(金) 定款による例会取止め
11月12日(金) R財団奨学生 卓話 *地区に依頼中
11月18日(木) 日帰り旅行は延期
*移動例会は検討し後日ご案内できるようにする
11月19日(金) クラブフォーラム 点鐘12:30通常例会とリモート
*昨年度の引継ぎにて職業奉仕委員会で依頼されていた3名の卓話 竹内、柳田、羽石会員
11月26日(金) 定款による例会取止め
- 2) 次の書類を回覧します。
1. 和光42周年記念例会と認可証承認を祝う会 10月29日(金) 開宴18:00~ 椿山荘
2. ハイライトよねやま259号(P4)に掲載
3. ガバナー月信、全会員に配布
- 3) 第6回理事会議事録は会員にメール又はFAXとと掲示



【委員長報告】

○会報・IT委員会 委員長 浅見隆広会員



今年度実施しました内容は、例会場のネット環境を改善しました

1Gまで通信速度を対応したWi-Fi環境にしました。これにより例会場内のスマホ、パソコンが移動可能になり通信環境もよくなりました。

ZOOMによるハイブリット例会が可能にするため、ZOOMとの年間契約をしました。これにより時間等を気にしないで利用が可能になりました。

しかしながらオペレーションがまだまだ不慣れなため勉強中です。

マイクやカメラの設置位置などの環境が整わないために演台わきにIT委員会が座ることをしばらくご了解お願いします。

ケーブルや例会場のセッティングを検討したいと思います。

zoom参加 吉原、竹内、齋藤茂、下山会員



【出席報告】委員長 涌井英樹会員

19月15日	正会員数	免除会員	出席率
会員数	27名	10名	
出席数	19名	4名	71.9%

【ニコニコBOX】委員長 涌井英樹会員

奥田会長、森田幹事、柳田、羽石、尾崎功会員
齋藤英、坂本、島田、深谷、星野、横田昌会員
涌井会員

戸高健司ガバナー補佐。ようこそ。お越しいただきました。

本日合計¥13,000



【卓話】第2Gガバナー補佐 戸高健司様

皆さん、こんにちは。本年度、第2グループガバナー補佐を務めている戸高健司です。
本日は、よろしくお願ひいたします。



まず、水村雅啓ガバナーについてお話をさせていただきます。水村ガバナーは、一言で言うと「真面目な方」です。見た目からも「実直さ」がにじみ出ていらっしゃるんですが、決して堅物ではなく、ユーモアも持ち合わせた素敵な方です。
最初の地区役員合同会議の挨拶で、ガバナーになることに決めたときのエピソードをお話しましたが、「忽滑谷さんを地区幹事にするためにガバナーになった」そうです。冗談かほんとかわかりませんが、決して偉ぶることのないお人柄が出たエピソードでした。

次に、これから一年を通してお願いし続けていくことになる、会員増強とロータリー奉仕デーの実施についてです。
地区の目標として掲げ、お願いしているのは、各クラブ2名の純増です。

昨年度は、和光さんと川越小江戸に2つの衛星クラブが設立できたことと地区の会員減少も一定の底をつき、会員増に転じたと井栴会員増強委員会統括委員長は分析していました。本年度も衛星クラブの設立をまだ設立できていない地区内グループに働きかけるとともに、引き続き各クラブの会員増強をお願いしてまいります。

奥田会長のリーダーシップで、ロータリーの活動が再開し、一人でも多くの会員が増えることを願っています！

そして、もう一つが「ロータリー奉仕デー」の実施です。「ロータリー奉仕デー」は、2つ以上のロータリークラブが合同でロータリーの重点分野をテーマにして、参加者の4分の1以上の部外者を巻き込んで行う「奉仕事業」です。

それ以外にいくつかのガイドラインに沿ったものである必要があります。少々複雑なのでまずは「ロータリー奉仕デー」とは何かをご理解いただき、社会奉仕委員会を中心に企画・実施していただきたいと思います。

話の最後に第2グループが抱えている課題についてお話しさせていただきます。地区には5グループあり、順番はともかくある程度均等にガバナーを輩出していくことが求められています。しかし、第2グループでは、2014年富士見クラブの坂本元彦ガバナーを輩出してから7年たちますが、次のガバナーを出すことができていません。

第2グループは、クラブ数7クラブ、会員数190名と地区内で一番規模の小さいグループですので、適任者がそう多くはないということもできるかもしれませんが、適任者がいないのではなく、ガバナーを支えることをクラブができないという話も聞こえてきます。

そこで、昨年度相原ガバナーがグループ内のグループ化、すなわち小グループ（複数のクラブ）でガバナーを支える体制を作ることを提案されました。大筋では賛同を得られましたが、具体的に進めていくのは大変なことだと思います。

現在、クラブの小規模化および高齢化に伴いクラブのクラブとしての能力が低下しているのは否定できません。それを補う方向性がクラブ間の協力・信頼関係の構築だと考えます。

グループ化の議論もこれから俎上に上ってくるとおもいますが、ガバナー輩出にとどまらず、クラブを越えた活動を会長幹事会などで話し合っていきたいと思っております。

さて、再来週はガバナー公式訪問です。変則的な公式訪問になりますが、是非、記憶に残る例会になることを願っております。よろしく願いいたします。

最後になりますが、富士見クラブさんの益々のご発展を祈念いたしまして、私からのお話を終了させていただきます。ご清聴ありがとうございます。

【ご挨拶】 坂本元彦PDG



本日、久々に例会場にきました。皆さんもお元気そうですね。

これからも、親睦と奉仕を大事にしましょう。ロータリーの哲学を学び、知識を身に付け、会長を経験し、地区に出る等、ロータリアンとしてのプライド、意識を持ちましょう。

【点 鐘】会長 奥田功次会員

例会日	毎週金曜日
時 間	12:30~13:30
事務所	〒354-0022 富士見市山室2-10-10 島田ビル201号
電 話	049-251-6596 FAX049-252-3848
例会場	島田ビル1F
Eメール	fujimi-re@nifty.com

会報・IT委員会 週報担当:浅見隆広
委員長:浅見隆広 副委員長:尾崎孝好
委員:長根章浩 涌井英樹

1. 米山月間の由来

国際ロータリー理事会が指定したロータリーの特別月間に加え、日本独自の月間テーマとして、10月は米山月間となっています。なぜ、10月なのでしょう？^①1975年8月、米山梅吉翁が逝去した4月28日までの1週間を「米山週間」とすることが決定しました。ある地区ですで行われていた強化活動を全国へ広げ、米山奨学事業を促進することが目的でした。しかし1980年度になると、米山週間は4月から10月1日~7日へと変更されました。その理由はいくつかあります。一つには「ロータリー雑誌週間」が1978年度から4月となり、重なってしまったこと。また4月では各クラブへ送付される事業報告書などの資料数字が約1年前のものとなることや、採用されたばかりの奨学生に卓話を依頼することに無理がある、交通機関のストライキが多いなど現実的な支障があったためです。そして何よりも東京RCによる米山基金から日本全地区クラブの共同事業とする決議や合意が行われた地区大会がいずれも10月だったこと、これが大きな理由とされています。1983年からは週間制度が「月間」となり10月が米山月間として定着し今に至っています。



2. 動画で理解促進—YouTubeページのご案内

米山記念奨学会では動画で直感的に当事業を理解して頂ける様、公YouTubeチャンネルを開設し順次新しい動画をアップロードしています。今年度は「クラブの国際奉仕と米山学友」(11分)、「TOKYO2020でボランティアをした米山学友」(2分)の2本を新たに追加。今後も水野功副理事長が語る米山記念奨学事業の解説動画等、順次公開予定です。是非チャンネル登録を御願します

3. 寄付金速報—米山月間へご協力ください

9月までの寄付金は前年同期と比べて7.5%減(普通寄付金:0.3%減、特別寄付金:16.6%減)約2,800万円の減少となりました。新型コロナウイルスの感染者数は8月に過去最大のピークを迎えました。各地で出された緊急事態宣言やまん延防止等重点措置を受け、例会が長期休会となっていたクラブも多くあります。この影響により、7~9月の累計額は2012年度以降で最も低い金額となりました。10月は米山月間です。徐々にコロナに対する警戒レベルも引き下げられ、行動制限も緩和されてまいりました。ロータリー活動も再開されつつありますので、できる限り奨学生との交流を増やして頂き会員の皆さまには引き続き米山記念奨学事業へのご理解とご支援を宜しく願い致します。

4. 道路のゴミ拾いで再始動—第2770地区学友会

緊急事態宣言が解除されて2回目の週末となる10月10日、第2770地区(埼玉県南東)米山学友会が主催する「クリーンアップウォーキング」が行われ、学友と奨学生、ロータリアンら総勢26人が参加しました。このイベントは、コロナ禍で殆ど、休眠状態となっていた同学友会が、地域への貢献とともに、奨学生や若い学友たちにもっとロータリーファミリーとしての体験をしてもらいたいと考えた企画です。10日はその第一弾として同地区第1グループの区域にあるJR浦和駅から別所沼公園までおよそ2kmの道中を、三人一組でゴミを拾いながら進みました。今後も地区内第2~12グループで同様の活動を実施できるよう、日程を調整中ということです。同学友会会長の金正録さん(2011-13/大宮西RC)は「ようやく現役奨学生との交流を深めることができた。ゴミ拾いをした人はポイ捨てをしなくなるし、綺麗になった道を戻りながら皆充実感で一杯になった。自分の子どもと一緒に参加したが、良い体験をさせることができた」と、語って下さいました。

5. 大学学長に就任した米山学友

現在、京都精華大学の学長を務める米山学友のウスビ・サコさん(マリ/1992-94/京都北RC、現在同クラブ会員)。高校卒業後、中国の北京語言大学南京東南大学を経て来日した経歴の持ち主で専門は空間人類学。2001年に同大教員として着任し2018年4月より学長に就任しました。最近著書や新聞寄稿、ニュース番組のコメンテーターとして、日本社会や若者へ多様性や共生の在り方を問うメッセージを発信しています。今年6月24日の日経新聞「交遊抄」で、ウスビ・サコさんの寄稿が掲載されました。タイトルは「低姿勢な父」。父とは、ウスビ・サコさんの奨学生時代のカウンセラー、小野内会員のことで、「お金をもらいにクラブに行くと“世話人”なる男性が現れた。家まで送ると言い、車の後部座席のドアを開けてくれる。この奨学金は運転手までつくのかと感心した」。後に日本人女性と結婚する際も、小野内会員が実父かのように口添えしてくれたエピソードを経て、「マリでは企業の重役は車の後部座席のドアを開けたりはしない。でも、地元の名士である小野内さんは院生の私にそうしてくれた」「私も今は学長という職にあるが、誰に対しても低姿勢でフラットに接したい」という文で結ばれています。サコさんのように、多くの米山奨学生はカウンセラーやロータリアンの振る舞いから学びます。コロナ禍が落ち着き、この事業の真髄である交流が各地で再開される。

